

# 平成27年度 川崎市青少年科学館(かわさき宙と緑の科学館) 進行管理・評価表

## 川崎市青少年科学館進行管理・評価の概要と目的

川崎市青少年科学館(以下、「科学館」と言う。)は、川崎市青少年科学館運営基本計画(以下、「運営基本計画」と言う。)に基づき、運営基本計画で定めた科学館の理念を達成するために進行管理・評価を行い、課題や成果の共有と、組織的・継続的な改善を進めます。また、評価の公表によって事業の客観性・透明性を確保し、市民・利用者への説明責任を果たします。

## 科学館の評価体制

科学館では、進行管理・評価の導入にあたり、館職員による自己評価と諮問機関である青少年科学館協議会(以下、「協議会」と言う。)による評価を併用します。科学館が自ら目標を設定し、達成状況について分析して、成果と課題を明らかにするとともに、その妥当性を協議会による客観的な視点から検証し、事業や運営に関しての具体的な改善方策などの助言を受けます。

※これまでの「青少年科学館協議会」は、川崎市の全庁的な付属機関の見直しに伴い、平成28年度より「川崎市社会教育委員会議」の「専門部会」に位置づけられることになりました。諮問機関としての機能はこれまでの「協議会」と変更ありません。

## 評価区分

以下の通り評価区分・達成度区分を設けます。

### <評価区分>

区分	内容
A	<u>目標に向かって順調に課題解決が図られているもの</u> ●目標の実現を阻害するような新たな課題や残された課題等はなく、目標に向かって順調に進捗している場合
B	<u>目標に向かって一定の成果が上がっているもの</u> ●新たな課題や残された課題等があるが、目標の実現に向けて今後も現在の取組を継続していくことで対応できる場合
C	<u>課題解決が不十分で取組の改善が必要なもの</u> ●新たな課題や残された課題等があり、目標の実現に向けて、計画の見直しや取り組みの改善が必要な場合
D	<u>課題解決が図れていないため、抜本的な見直しが必要なもの</u> ●前提としていた諸条件が大きく変化し、取り組み内容の抜本的な見直しを行わなければ目標の実現が困難な場合

### <達成度区分>

区分	内容
5	<u>目標を大きく上回って達成</u> ・目標に明記した内容よりも相当高い水準であった。 ・目標に明記した数値を大きく上回った。
4	<u>目標を上回って達成</u> ・目標に明記した期日通り達成し、明記した内容よりも高い水準であった。 ・目標に明記した数値を上回った。
3	<u>目標をほぼ達成</u> ・目標に明記した期日、内容どおりに達成した。 ・目標に明記した数値とほぼ同じであった。 ・おおむね適正に処理し、業務遂行に支障がなかった。
2	<u>目標を下回った</u> ・目標に明記した内容・期日のいずれかが達成されなかった。 ・目標に明記した数値を下回った。
1	<u>目標を大きく下回った</u> ・目標に明記した内容・期日のいずれも達成されなかった。 ・目標に明記した数値を大きく下回った。

## 1. 展示事業

地域の自然に親しみ、知識を深めることができるように、身近なフィールドである生田緑地や川崎の星空と連動した展示を行います。  
 市民・利用者が最新の情報に触れられるよう、日々移りゆく自然の様子や最近の研究成果などを反映した展示の更新を行います。  
 市民・利用者の疑問や興味関心にきめ細かに対応した展示解説を行い、自然や天文、科学技術等へのより深い理解と関心につなげます。

### (1) 自然展示

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
わかりやすい展示と保守管理及び更新が容易なシステムの確立	リアルタイムの情報発信と標本等展示資料の定期的な入れ替えによって展示を更新するしくみを確立	①川崎市内あるいは生田緑地の自然をテーマにした展示の保守管理(損傷や劣化の著しい資料の交換) ②生田緑地の自然についてのリアルタイムな情報発信(受付横「生田緑地ギャラリー」やSNSを活用) ③新たな資料による展示の追加および更新(生田緑地ギャラリー及びその他のコンテンツの追加)	①川崎市内あるいは生田緑地の自然をテーマにした展示の保守管理(損傷や劣化の著しい資料の交換)を適宜実施した。 ②生田緑地の自然についてのリアルタイムな情報発信(受付横「生田緑地ギャラリー」やSNSを活用)を定期的実施した。 ③新たな資料による展示の追加および更新(生田緑地ギャラリー及びその他のコンテンツの追加)を実施した。	①収蔵資料が少なく、展示更新に供する事が可能な余剰標本がわずかであるため、交換に必要な資料メモを作成しておき、採集の効率化を図った。 ②受付横の、緑地案内ボードでの情報発信は、こまめな更新を心掛けたほか、SNSでの発信は、緑地の季節の自然だけでなく、バックヤードでの諸活動なども紹介することに努めた。 ③ ①に同じ。		●展示の保守管理、職員による展示解説や情報発信に工夫がみられ、その活用についても教育普及事業への貢献度は高いことが評価できる。 ●SNS等の活用により館の催しや生田緑地の情報をリアルタイムで発信する取組みは、今後も充実されることを望む。 ●展示標本の更新、緑地と連動した展示など目標達成に向かって着実に改善されている。展示更新用の標本の充実や定期的展示解説の実現など、さらなる努力を望む。 ●生田緑地における自然界の様子をとともわかりやすく展示している。実物大の動植物の標本はととも貴重であり子どもたちに好評である。展示物の更新はなかなか難しい面もあると思う。季節による特設コーナーの設置など提示方法や企画内容などの工夫が必要である。
展示と活用(見るだけの展示から体験できる展示への転換)	展示と連動した自然ワークショップの実施など、体験型の展示の充実	①職員による展示解説の実施 ②展示と連動した「自然ワークショップ」の実施	①来館した団体または個人の要望があった場合、職員による展示解説を実施した。 ②「自然ワークショップ」の実施(全12回)に当たり、展示物と関連した内容を交えた回を企画した。	①定期的な解説を行うには至っていないが、来館団体または個人の要望があった場合、その都度、職員が展示解説を実施した。 ②「自然ワークショップ」を行うに当たり、展示物と連動あるいは関わりのある内容をもった回(4～5回)を企画、実施した。		評価: B

(2)天文展示

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>川崎方式のプラネタリウム投影※            (※専任の解説員が企画・制作し、肉声で解説する青少年科学館の従来の投影方式)</p>	<p>新型メガスター投影システムやアストロテラスと連携した新たな川崎方式の確立</p>	<p>①一般投影12番組制作投影            ②小中学校各学年向け学習投影            ③子ども向け投影番組制作投影            ④シニア向け、未就園児の親子向け等、多様な観覧者に向けたプラネタリウム投影の開催</p>	<p>①年間12の一般投影番組を自主制作し、投影を行った。            ②小中学校を中心に、利用する学年に応じた天文学習のための投影を行った。            本年度より利用学校へのアンケートを実施し、要望や投影の効果の把握に努めている。また、ろう学校向けの字幕付き学習投影を初めて実施した。            ③土日祝日を中心に子ども向け番組の投影を行った。また、次年度より公開する新番組の制作を行った。            ④「星空ゆうゆう散歩」、「ベビー&amp;キッズアワー」、字幕付き投影等、様々なニーズに合わせた投影を実施した。</p> <p>-----            達成度:4</p>	<p>①一般投影番組の制作、投影を計画通りに実施し、多くのリピーターが観覧するなど、好評を得ている。            ②アンケートの導入により学校の要望をより取り入れられるようになり、希望に合わせた学習投影が実施できた。            ③星空と映像を組み合わせ、幼児から低学年に楽しめる投影を実施できた。            ④ゆうゆう星空散歩とベビー&amp;キッズアワーには毎回多くの来館者があり、定着が図られている。</p>		<p>●専任の解説員による、プラネタリウムの一般向け投影、児童生徒向けの学習投影、ベビー&amp;キッズアワーのような幼児向け投影からシニア向け投影、字幕付きの投影に至るまで、さまざまな来館者を対象とした番組の企画・制作は「川崎方式」として高く評価できる。アンケートや観測の成果も有効に活用されている。            ●天文普及と言う課題解決のために、子どもを対象とした投影をのべ141団体を対象に実施し、又定期活動として月毎に内容を企画・制作・投影することで、11万人を超える市民に、天文の教育を実施した点が評価できる。            ●学習投影で来館した学校の校舎・校庭からの夜空投影を可能とした「ステラドームスクール」のソフトは、児童の興味や関心を高める上でとても有効であり、評価できる。            ●「メガスター」は科学館が誇れる素晴らしいプラネタリウム投影機器である。今後も多くの方にリピーターとして来館してもらえるようPRに努める必要がある。</p>
<p>基礎的な内容から最新情報まで反映した天文展示</p>	<p>プラネタリウムの番組やアストロテラスでの星空観察のプログラムと連動させた発展的な内容の展示の実現</p>	<p>①新発見の天体及び事実に基づいた常設展示の更新の検討、追加修正の実施            ②気象観測データを気象展示に反映するためのデータの解析と修正、更新の検討            ③アストロテラス等、科学館の天体観測設備や機材による観測結果や、調査研究に基づく展示の企画、実施</p>	<p>①特殊な天文現象や、観測結果を活用した映像展示へのコンテンツの追加、更新を随時行った。            ②気象観測データをリアルタイムで展示に表示した。            ③流星の写真展など観測成果に基づくパネル展示等を実施した。</p>	<p>①プラネタリウムの番組やその時期の天文現象に合わせた展示コンテンツの提供ができた。            ②刻々と変化する気象の様子を学ぶことができる展示を行った。            ③観測成果を活用した企画展示を行った。</p>		<p>●2階の天文展示、さらに屋上の天体観測機器など積極的な活用に向けてさらに工夫を重ねてほしい。            ●一般投影の番組の一部を外国人向けに英語その他の言語で解説を聞けるきるよう検討が望まれる。            ●プラネタリウムの入場者数と</p>

					<p>アストロテラスの利用者数は開館当初と比較すると、それぞれ25.5%、58.6%で、特にアストロテラスはH25から3年連続で減少が著しい。アストロテラスは野外天体観測施設のため、悪天候により実施できなかった日が多かったと思われる。その中であって、一般投影とベビー&amp;キッズアワーの充足率は90%に達しており、大いに評価される。</p>
			達成度:3		評価: A

(3) 科学展示

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>科学に関する企画展の実施</p>	<p>実験・観察の方法や成果を発信する展示による体験学習の充実 21世紀子どもサイエンス事業で活用している「ワクワクドキドキ玉手箱」(以下「玉手箱」)の紹介</p>	<p>①市内小学生の優秀な科学作品を展示する「小学校理科優秀作品展」の開催  ②市内中学生の優秀な研究成果を展示する「中学校理科優秀作品展」の開催  ③先端科学技術について紹介する企画展を開催</p>	<p>①川崎市立小学校理科教育研究会との相互協力により、川崎市小学校科学作品展(市内各区開催)において選ばれた最優秀作品(市長賞受賞作品)7点を展示した。  ②川崎市立中学校教育研究会理科部会との相互協力により、川崎市理科作品展・金賞受賞作品及び日本学生科学賞神奈川県作品展・特別賞受賞作品、7点を展示した。  ③「先端科学技術展」を計画したが、企画展を引き受ける企業を見つけられず、企画展を実施することができなかった。</p> <p>達成度:2</p>	<p>①小学生の夏休みの自由研究の成果を模造紙にまとめた作品を掲示することで、多くの来館者に見ていただく工夫をするとともに、今後の自由研究の参考となるように努めた。  ②中学生が身のまわりの疑問や不思議に思ったことについて、その解決・解明に向けて真摯に取り組んだ優秀な作品を掲示することで、多くの来館者に見ていただくとともに、川崎市内の中学生の科学作品の成果やレベルを示すことができた。  ③企画展実施に係わる契約方法の変更により、企画展に協力してくれる企業がなくなり、企画展を開催できなかったのは残念であった。</p>	<p>③展示会開催にあたっては、企業が参加・協力しやすく、適切な委託契約の方法について検討のうえ、委託企業の選定にあたるようにする必要がある。(企業による先端科学技術展は平成28年度は実施しない予定)</p>	<p>●川崎市立小中学校の理科作品展や日本学生科学賞神奈川県作品展の上位入選作品の展示紹介は、理科教育の推進及び成果について発表する貴重な機会となっている。今後も継続を望む。 ●小中学校の科学・理科作品展などは毎年実施されて恒例となっている。優れた成果を館での展示だけではなく、市内各地の公民館や文化センターなどで巡回して展示してはどうか。市民に広く知ってもらい、理解を深められると思われる ●「先端科学技術展」が諸般の事情により実施できなかったことは残念である。開催方法について課題を整理するとともに、多くの企業や関連する機関へ積極的に主旨を伝えて参加を促す必要がある。 ●単に作品を展示するだけでなく、作品について学芸員が作者にアドバイスをを行うなど、作品と学芸員との有機的な繋がりを工夫することで館としての独自性を打ち出し、出品者のインセンティブの確保や展示のステータスを上げる努力が必要である。</p> <p>評価: B</p>

\* アストロテラス: 市民が集い、スタッフと参加者が同じ星空を共有し、星空の美しさと宇宙の神秘を体験するための、観測機材を備えた天体観望用の施設

\* 21世紀子どもサイエンス事業: 川崎市で活動する民間団体・産業・学校と科学館が連携し、理科の好きな子どもや、科学に明るい市民を育てていく事業

\* ワクワクドキドキ玉手箱: 市民に科学の楽しさを伝えるための実験・観察の手引きや道具が詰まったツール

## 2. 教育普及事業

展示を活用した学習プログラムやフィールドワーク、実験等、体感・体験できる講座を提供し、実体験に基づいた生きた知恵を育てます。

市民・利用者の興味関心や学齢に応じてステップアップできる段階別の講座を提供することで、多様なニーズに応え、専門性を深めることができる学習支援を行うとともに、科学教育等に関する研修を充実させ、各分野の人材の育成や、指導者の養成に努めます。

### (1) 自然体験

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
生田緑地での自然体験・学習	より多くの市民・利用者が生田緑地の自然に関心を持てるような、多様な内容・形態の観察会や自然教室を実施	①市域の自然を幅広く紹介する「生田緑地観察会」、「自然観察会」の実施 ②身近な自然を素材にした「自然ワークショップ」の実施 ③継続的参加が可能な大人(初心者)向け講座(「初心者のための植物学講座」)及び子ども向け講座(「子どものための昆虫学教室」)の実施	①市域の自然を幅広く紹介する「生田緑地観察会」(年間36回)、「自然観察会」(2回)を実施した。 ②生田緑地をはじめ、身近な自然を素材にした「自然ワークショップ」(年間12回)を実施した。 ③継続的参加が可能な大人(初心者)向け講座(「初心者のための植物学講座」)および、子ども向け講座(「子どものための昆虫学教室」)を実施した(すべて3回連続講座)。 ----- 達成度:3	①「生田緑地観察会」(年間36回)、「自然観察会」(2回)を実施し、広範な分野について、一般市民へ向けた教育普及活動を行うことができた。 ②生田緑地をはじめ、身近な自然を素材にした「自然ワークショップ」(年間12回)では、観察会よりも平易な内容とし、とくに幼少な世代への啓発に努めた。 ③継続的参加型の3講座では、参加者の要望や意欲に合せながら、さらに知識や好奇心を深められるような内容を用意することができた。		●生田緑地内外の自然観察会、自然教室、地層観察を中心とした学校支援、人材育成を目指した講座の開設など自然体験事業計画の幅はとても広く、活発に活動している。その中で、教員向け研修会開催等の努力により、学校主催の自然観察会で担当教員が自ら解説や指導するようになったことは評価される。 ●子供から大人向けまでさまざまな自然観察会や講座を実施し、市民誰もが川崎の自然に触れる機会を持つことができ、大いに評価できる。都市部において授業に取り入れられる地層学習プログラムを持つ所は多くない。今後の継続と充実を望む。 ●地層や林の観察などで市内の小、中学校の理科教育の学習支援は十分評価できる。人材育成事業におけるボランティア育成講座の企画立案およびその実施に関しては、その理念が生かされるよう問題点の把握と検討が必要である。 ●「子どものための昆虫学教室」など新しい試みが行われている。外部団体との協力体制についてはしっかりと検討を行う必要がある。 ●生田緑地は自然環境が観
連携による自然体験・活動	活動フィールドを拡大し、多摩川水系をフィールドとした自然教室を開催	①川崎市内の団体(NPO法人かわさき自然調査団等)を講師に、多摩川など生田緑地外の市域の観察会を実施 ②継続的参加が可能な大人(初心者)向け講座(「初心者のための植物学講座」)及び子ども向け講座(「子どものための昆虫学教室」)の実施(再掲)	①川崎市内の団体(NPO法人かわさき自然調査団等)を講師とした多摩川など生田緑地外の市域の観察会を計画したが、実施には至らなかった。 ②継続的参加が可能な大人(初心者)向け講座(「初心者のための植物学講座」)及び子ども向け講座(「子どものための昆虫学教室」)を実施した(再掲)。 ----- 達成度:3	①川崎市内の団体(NPO法人かわさき自然調査団等)を講師にした既存の観察会枠があるので、多摩川など生田緑地外の市域の観察会は職員が自主的に実施した。 ②継続的参加が可能な3講座により、参加者の要望や意欲に沿いながら、さらに知識や好奇心を深められるような内容を用意することができた。		

<p>展示解説やワークショップ</p>	<p>・展示解説やワークショップ等を通じて、市民の交流と学び合いを実現</p> <p>・バックヤードツアーや一日学芸員体験等、解説やワークショップメニューの内容を深める</p>	<p>①「子どものための昆虫学教室」など各講座において、常設展示の解説や、収蔵庫などバックヤード紹介(収蔵資料、標本の供覧)を実施</p> <p>②身近な自然を素材にした「自然ワークショップ」の実施(再掲)</p>	<p>①「子どものための昆虫学教室」など各種講座や、自然関連団体の要望や各種研修等における要請に応じ、展示解説や、収蔵庫および保管標本の解説や供覧を実施した。</p> <p>②生田緑地をはじめ、身近な自然を素材にした「自然ワークショップ」(年間12回)を実施した(再掲)。</p> <p>----- 達成度:3</p>	<p>①各種の講座や、自然関連団体の要望や各種研修等における要請に応じ、展示解説や、収蔵庫および保管標本の解説や供覧を実施することで、博物館基幹事業の周知をはかり、理解を深めていただいた。</p> <p>②生田緑地をはじめ、身近な自然を素材にした「自然ワークショップ」(年間12回)では、観察会よりも平易な内容とし、とくに幼少な世代への啓発に努めた(再掲)。</p>	<p>察できるすぐれた場所である。様々な企画の実施を重ねるとともに、その成果を年報などで紹介する必要がある。</p> <p>●学校支援・観察用テキストの作成とその更新により、より高い内容のものへ発展させることを望む。</p> <p>●定員超過により抽選を行っているにもかかわらずトータルの充足率が50%未満のプログラムがあり、キャンセル待ち対応などにより定員を満たす工夫が必要である。また、観察会のような当日自由参加のプログラムでは1回の平均参加者数が80人を越えるものがあり、参加者の満足度をアンケート等により把握し、受入れ拡充など配慮が望まれる。</p>
---------------------	--	---	---	---	---

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題
学校支援	フィールドワークの学習効果を高める学校支援プログラムを開発・運用	①学校が実施する自然観察会における解説(地層・自然)及びその支援 ②自然観察会等で使用できる学習資料の作成支援・提供(地層・林・総合的な学習の時間) ③自然観察会における指導力向上を目的とした教員研修の実施	①「地層観察」を小中学校44校(参加者4,721名)、「林の観察会」を5校(参加者332名)実施した。 ②生田緑地の地層観察に利用できる指導者用のテキストの内容を再検討し修正を行った。 ③上記の指導者用テキストをもとに、教員向けの研修会を24回行った。また、この他、植物に関する研修を3回行った。 ----- 達成度:3	①直接的な観察・体感を大切にした観察会を実施するとともに、生田緑地の自然の教材化を工夫することで、児童・生徒の学習意欲を喚起することができた。 ②③指導者用テキストの内容を丁寧に見直したことや研修会に参加する学校等が増えたことで、教員が自ら地層や林の観察会の指導が行うことが多くなった。	
人材育成	ボランティア制度導入についての検討	①自然史資料(標本)作成および整理ボランティア育成の検討(スキルアップのための研修実施等) ②継続的参加が可能な大人(初心者)向け講座(「初心者のための植物学講座」)及び子ども向け講座(「子どものための昆虫学教室」)の実施(再掲)	①自然史資料(標本)作成および整理ボランティア育成が可能か検討を行った。 ②継続的参加が可能な大人(初心者)向け講座(「初心者のための植物学講座」)及び子ども向け講座(「子どものための昆虫学教室」)の昆虫学教室(「子どものための植物学教室」)の(すべて3回連続講座)を実施した(再掲)。 ----- 達成度:2	①自然史資料(標本)作成および整理を担う事ができるレベルのボランティアを育成するまでには相応の負担を要するため、対応可能な一部の分野において市民活動団体等の協力により整理を行うにとどまった。 ②継続的参加が可能な3講座により、参加者の要望や意欲に合せながら、さらに知識や好奇心を深められるような内容を用意することができた(再掲)。	現在の体制を踏まえ、市民活動団体等による協力や育成を含めた対応について、引き続き検討を行う。  ----- 評価: A



## (2)天文体験

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
市民や児童生徒が参加できるプラネタリウム番組制作	教員や児童生徒が自らプラネタリウムの学習番組を制作・投影できるプログラムの実現	小中学生対象のプラネタリウム番組制作教室の開催	小中学生を対象に「プラネタリウム番組制作教室」を実施し、児童生徒の企画、制作による番組制作と発表を行った。 ----- 達成度:4	「見る」から「使う」プラネタリウムへの取り組みが児童生徒にまで広げられた。		●昨年度から始まった新しい企画、プラネタリウム番組制作教室の対象が小学生にまで拡大したことは評価できる。また、かわさき星空ウオッチングやこどものためのプラネタリウム番組制作教室などそのユニークな事業のさらなる発展を望む。 ●天文講演会や星空教室、コンサート、民家園や図書館などと連携した企画など多くを実施したことを評価する。 ●児童生徒、教員や一般市民が主体的に参加してプラネタリウムの番組を制作する取り組みは当館の事業の中でも非常にユニークなものであり、今後ますます発展させていくことが期待されている。その他に行われている教員研修や天文サポーター対象の研修も成果をあげており、評価できる。
プラネタリウムを活用した教室・講座の開催	専門家による講演や市民参加型の講座の開催等を通じて、市民の学習・交流事業を継続・発展	①主に研究者等を招いて行う最先端の話題などの天文講演会の開催 ②外部講師及び館職員による星空教室の開催	①外部講師による天文講演会を2回実施した。 ②星空教室を6回実施し、職員及び外部講師の指導による天体観測体験を行った。 ----- 達成度:3	天文講演会は毎回多くの参加者があり、質問が多く出るなど関心も高い。 星空教室は毎回定員を大幅に上回る応募があり、熱心に体験する姿が見られた。		●科学館における「中学校高等学校理科初任者教員研修」の実施は、天文を専門的に学んでいない教員も多く、重要な機会となっている。 ●市民に天文普及をすることを目的に活動しており、昼間はアストロテラス公開を行って自由参加の観察会を実施したり、夜間は天体観察会を実施するなど、多くのプログラムを用意して不特定多数の市民の関心に応える工夫をし、実施した点が評価できる。さらに、出前方式による天体観察会にも積極的に出向き、学校・一般団体に開かれた活動をしている点が評価できる。
プラネタリウムを活用した他分野との融合イベント	プラネタリウムの星空演出と、より多彩な芸術との融合の実現を目指した、連携先の開拓や演出手法の開発	①様々な演奏家を招き、プラネタリウムで星空と音楽が融合したコンサートの実施 ②民家園との共催事業「お月見の会」の実施など、緑地内施設や図書館、区役所等との共催事業の実施	①プラネタリウムでのコンサートを2回実施した。 ②民家園との連携によるお月見プラネタリウムと民家園での月の観察会を実施した。多摩図書館との連携による朗読会、多摩区役所との連携による星空コンサートを実施した。 ----- 達成度:3	ずれの事業も毎回多数の参加者があり、市民の期待が高いことに加え、多くの方に星に親しんでいただき、科学館の利用を促す機会としても有効である。		

<p>アストロテラス等での天文体験</p>	<p>星空を身近に感じ、広く宇宙に親しむことのできる事業の展開・充実</p>	<p>①昼間・晴天時にアストロテラスを公開し、太陽・星の星観察の開催</p> <p>②夜間の天体観望会(星を見る夕べ)を開催し、望遠鏡、双眼鏡等での天体観察会の実施</p> <p>③学校等からの依頼を受け、職員を市内各地に派遣して行う天体観望会(星空ウォッチング)の開催</p> <p>④アストロカーを活用し、職員を市内各地に派遣して市民を対象とした観察会を実施</p>	<p>①昼間、晴天時はアストロテラスを公開し、太陽の観察、金星、1等星など昼間の星観察を行った。</p> <p>②「星を見る夕べ」を月2回実施(悪天候時は中止)し、望遠鏡等でその時期に見ごろ彗天体の観察を行った。本年度は12回実施した。</p> <p>③④「かわさき星空ウォッチング」として、学校等の団体からの要請にもとづき、主に学校の校庭を会場とした天体観望会を年間20回開催し、2,942名の参加があった。</p> <p>----- 達成度:3</p>	<p>アストロテラス等を活用し、本物の天体を観察する機会を多く提供することができた。アストロカーの活用により市内各地の学校等で観察会を実施し、機会の拡大を行った。</p>	<p>●観察会の結果、記録を残しておき、次の企画へ活かして発展させることを望む。</p> <p>●少人数で幅広い参加者層をカバーする多数のプログラムを実施しており、抽選を行っているプログラムもトータルの充足率が70%以上ある点は高く評価される。しかしその一方で充足率が60%前後に止まるプログラムもあり、広報や内容の再検討が必要である。</p>
-----------------------	--	---	--	---	--

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題
学校支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学館の調査研究成果の天文学習への活用</li> <li>・プラネタリウム番組制作ソフトを市内全小中高等学校に配布し、プラネタリウム番組制作を支援</li> <li>・プラネタリウムを児童生徒が制作した番組を発表できる場として活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校等で利用できるプラネタリウム番組制作ソフト(ステラドームスクール)講習開催</li> <li>②市内各地及び学校を会場としたその時期に応じた天体観望会(星空ウォッチング)の開催(再掲)</li> <li>③天体や天文学習における指導力向上を目的とした教員研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ステラドームスクールの活用法について、平成27年度も川崎市総合教育センター主催の「中学校高等学校理科初任者指導力向上研修」の一コマに位置づけられた。2回の講習会を開催した。</li> <li>②「かわさき星空ウォッチング」として、学校等の団体からの要請にもとづき、主に学校の校庭を会場とした天体観望会を年間20回開催し、2,942名の参加があった。</li> <li>③主にプラネタリウムとアストロテラスを活用した授業利用の研修会を4回実施した。</li> </ul> <p>----- 達成度:3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「中学校高等学校理科初任者教員研修」にステラドームスクールについての研修位置づけられ、ステラドームスクールの活用について、理科に携わる初任者教員に周知することができてよかった。</li> <li>②天体の観察のみではなく、子どもたちに、天体に対する興味を深めることができるようなわかりやすいスライド資料の作成及び星座解説を行うことができた。</li> <li>③プラネタリウムとアストロテラスを授業に利用することによって学習効果が高まることを示すことができた。</li> </ul>	
人材育成	ボランティアのスキルアップや、活動内容のステップアップを支援	天文サポーター研修会を開催し、天文ボランティアの育成と星を見る夕べ等での活動を実施	継続参加する天文サポーターを対象とした研修会を4回実施した。	研修会の実施により望遠鏡操作のスキルアップやサポーター同士の意見交換などができ、星を見る夕べ等での活動を充実させることができた。	
-----					評価: A

(3) 科学体験

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>市民の多様な学習ニーズに応える実験教室の開催</p>	<p>・多様な年齢層に向けた科学教室の開催</p> <p>・気軽に楽しめるサイエンスショーや、年齢や学習段階の異なる人々が共に学べる交流・学習イベントの実現</p>	<p>①初歩的な科学講座の実施(実験工房)</p> <p>②単発型の科学講座の実施(わくわく科学教室、ふしぎ実験室)</p> <p>③大人向け科学講座の実施(大人の科学実験教室) ④通年型の科学講座の実施(発明教室)</p>	<p>①毎週土曜日に、来館者が誰でも参加できる「実験工房」を計65回開催し、6,025名の参加があった。</p> <p>②毎月第2土曜日に小学生を対象の「わくわく科学実験教室」を計11回開催し、273名の参加があった。また、4月・8月を除く月1回小学3～6年生を対象とした「ふしぎ実験室」を計10回開催し、168名の参加があった。</p> <p>③高校生以上を対象に「大人の科学実験教室」を計5回開催し、65名の参加があった。また、本講座に関連して、「大人のための電子・電気教室」を初めて1回開催し、13名の参加者があった。</p> <p>④いろいろなものをつくる体験をとおして、一人一人が作りながら考え、創造性を伸ばすことを目的とした「発明教室」を通年15回開催し、のべ309名の参加があった。</p> <p>----- 達成度:3</p>	<p>①当日参加可能な「実験工房」については、短い時間で、科学的な興味・関心が出ていたり、科学的な体験をしたいるすることができるテーマを選び実施するとともに、参加者増加に向けて、SNSを活用した広報を積極的に行うことができた。</p> <p>②多くの講座で募集定員を超える申し込みが今年度もあり、市民のニーズに応えることができるよう努めた。</p> <p>③平成27年度は、2回増の5回の「大人のための科学実験教室」を開催することができた。そのため、科学に興味のある市民など、多くの参加者を集めることができた。また、「大人のための電子・電気教室」などを開催することで、大人向けの科学実験教室のニーズの高さを知ることができた。</p> <p>④年間15回の連続講座に、多くの参加者が熱心に欠席もせず参加し、た。また、参加者の創造性・科学的思考の育成に努力することができた。</p>		<p>● H27年度は科学サポーター研修生が倍増し、かねてより課題になっていた人材育成がうまく回り始めている。</p> <p>● 発明教室、ふしぎ実験室や実験工房などの科学講座の実施により子ども達へ科学への興味を引き出す努力が継続的に実施されている。また、これらの講習会を支えるボランティア育成のための科学サポーター研修会も実施された。ボランティア育成に関しては、事業者である科学館の理念を通じ、主体的に取り組むさらなる努力が求められる。</p> <p>● 196名の生徒・教職員が参加した「中学校連合文化祭(多摩・麻生・宮前地区)」での理科学研究発表では、会場の提供ほか科学館の全面的な協力により開催できたことは評価できる。</p> <p>● 「玉手箱」の発展を今後も期待したい。ぜひ教育活動(クラブなど)活用に向けてのPRを積極的に行っていただきたい。また、21世紀子どもサイエンス事業では多くの学校が「出前科学実験教室」を利用していた。子どもたちはボランティアの方々のわかりやすい説明と実験を通し科学への興味関心が高まった。</p>

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題
<p>21世紀子どもサイエンス事業※の推進 (※川崎市で活動する民間団体・産業・学校と科学館が連携し、理科の好きな子どもや、科学に明るい市民を育てていく事業)</p>	<p>・玉手箱や科学ボランティアを活用して、理科の好きな子どもや科学に明るい市民を支援</p> <p>・科学ボランティアの活動を支援</p> <p>・民産学官の連携を強化し、多様な人々の出会いと交流を生み出す科学イベントを開催</p>	<p>①玉手箱を運用し実演を行う科学ボランティアの育成(科学サポーター研修会)</p> <p>②出前科学実験教室などにおける玉手箱の安全な運用と教材の工夫</p> <p>③参加者の交流を生み出す科学イベントへの参加(かわさきサイエンスチャレンジ)</p>	<p>①6月～9月に「科学サポーター研修会」を全6回開催し、そのうち実習として「身近な化学反応」をテーマに科学実験教室を1回行った。</p> <p>②出前授業として、アトム工房委託分48回(参加者2,600名)を実施した。また、109回の玉手箱の利用があった。</p> <p>③8月にKSP(かながわサイエンスパーク)で行われた「かわさきサイエンスチャレンジ」内で「科学と遊ぼう！ワクワクドキドキ玉手箱」を開催した。科学ボランティア団体・川崎市内教員・科学サポーター研修生・館職員などが13ブースを出展し、2,426名の参加があった。</p> <p>----- 達成度:3</p>	<p>①研修生は、講師の豊富な経験に基づいた講義を受講するとともに、科学実験に関する安全指導や運営方法などの習得に努めた。これにより、研修生の知見を高め、これからの科学ボランティアの育成に努めることができた。</p> <p>②保険等の負担を出前授業の要請する側に求めたことにより、子ども会やこども文化センター・わくわく広場からの依頼が減少し、傾向として実施回数が減ってきている。</p> <p>③科学マジックショーを工夫したり、低年齢層向けのコーナーを多めに設置するなど、多くの市民が楽しめるようなブースを設置する工夫を行うとともに、科学館のPRも行うことができた。</p>	<p>●実験・実習の参加型の企画は充実していて希望者が多い。特に年配者の参加は、その熱心さが指導する側に伝わってくるが多い。企画の発展・充実を望む。</p> <p>●出前授業が多く実施される点は評価できる。しかし、その内容が館活動の方向性と合っているのか検討する必要がある。また、その準備等に多くの時間を必要とされる。館の他の活動とのバランスを検討する必要がある。</p> <p>●子どもから大人まで幅広い年齢層をカバーした多様なプログラムを実施している点は高く評価できる。ただし、充足率が70%未満の大人向けプログラムのいくつかについては広報の充実や内容の検討が必要である。</p>

<p>学校支援</p>	<p>教材開発や学習支援プログラムの開発</p>	<p>みんなの展示コーナーを活用した科学作品やパネル等を掲示した</p> <p>①小学校理科優秀作品展の開催(再掲)</p> <p>②中学校理科優秀作品手の開催(再掲)</p> <p>③中学校連合文化祭の開催への協力</p> <p>④学習指導要領にそった科学館の資料や資材を活用した学校の科学教育への支援及び情報提供</p>	<p>①「1. 展示事業－(3)科学展示－「科学に関する企画展の実施」①」参照</p> <p>②「1. 展示事業－(3)科学展示－「科学に関する企画展の実施」②」参照</p> <p>③10月に「中学校連合文化祭(多摩・麻生・宮前地区)」として開催した。196名の生徒、教職員が参加し、日本学生科学賞に出展した生徒の研究発表が行われた。</p> <p>④玉手箱の授業活用について川崎市立小学校理科研究会・川崎市立中学校理科部会等で内容の解説及び使用方法の研修を実施し、小中学校の理科授業やクラブ活動において玉手箱が活用された。</p> <p>----- 達成度:3</p>	<p>①「1. 展示事業－(3)科学展示－「科学に関する企画展の実施」①」参照</p> <p>②「1. 展示事業－(3)科学展示－「科学に関する企画展の実施」①」参照</p> <p>③生徒の研究発表の場としての提供とプラネタリウムによる学習投影を行った。そのため、生徒の科学的な興味・関心をさらに高める機会を提供することができた。</p> <p>④理科教員を対象とした研修会や出前科学実験教室の実施時などを活用し、教員に対して玉手箱についての広報を行うとともに、実際に活用しての研修を行うことを通して、玉手箱への理解を深め、学校での利用回数の増加につなげることができるよう努めた。</p>	
-------------	--------------------------	--	---	--	--

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題
人材育成	ボランティアのスキルアップや、活動内容のステップアップを支援	市民・ボランティア団体を対象とした科学実験教室指導者としての実習を含む指導者講習会の実施(科学サポーター研修会)	①「2. 教育普及事業-(3)21世紀子どもサイエンス事業推進①」参照  ②市民を対象とし、子どもたちに科学の楽しさを伝えることのできる指導者を育成するため講座「科学サポーター研修会」を開催した。16名の研修生が参加し、玉手箱の利用方法や実験教室の運営と安全指導についての研修が行われた。	①「2. 教育普及事業-(3)21世紀子どもサイエンス事業推進①」参照  ②例年になく、多くの参加者(研修生)が集まり、充実した研修会を行うことができた。また、科学館の事業についての理解を深めてもらうよい機会ともなった。さらに、多くの研修修了生が、既存の科学ボランティア団体に加入して、ボランティアとしての活動を継続することができたのは、たいへんよかった。	
			達成度:4		評価: A

\* アストロカー: 当館が所有する移動天文車の愛称。望遠鏡、ディスプレイモニター等を搭載し、市内学校等で観察会を行う

### 3. 調査研究事業

川崎市は、東京都と横浜市に挟まれた南北に細長い地形であり、東京都との間には多摩川が流れています。市の北部では武蔵野の面影を残すような雑木林があり、自然が多く残っている地域と、南部の工場地帯をはじめとして都市化が進んだ地域があります。

このように、自然と都市の要素を包含する川崎市において、自然と人間の共存を考えるうえでの重要な要件を見だし、考察を深めることを目的として、学芸担当職員を中心に自然環境の調査や川崎で見られる天体の調査を行います。

また、科学教育を効果的に推進するために必要な調査研究を行います。

#### (1) 自然分野に関する調査研究

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
川崎市自然環境調査の継承発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査テーマの設定や発表方法の検討</li> <li>職員と調査ボランティア、研究機関、自然調査研究団体等多様な主体との協働による調査の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①第8次川崎市自然環境調査の実施(3年次・とりまとめ)および、調査報告書の編集・刊行</li> <li>②第9次川崎市自然環境調査の実施(H27～企画)</li> <li>③環境局など関連行政機関との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①第8次川崎市自然環境調査を実施(3年次・とりまとめ)し、同調査報告書VIIIを編集・刊行した。</li> <li>②第9次川崎市自然環境調査の実施(H27～企画)</li> <li>③「かわさき生物多様性戦略」に伴っての環境局の企画に当たって、同局への指導や助言を行うなど、関連行政機関と連携して作業を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①第8次川崎市自然環境調査を実施(3年次・とりまとめ)し、同調査報告書VIIIを編集・刊行し、市域の自然環境のモニタリングを果たしている。</li> <li>②第9次川崎市自然環境調査について、市民団体とも協議の上、「川崎市生物目録(仮称)」と方向性を定めつつある。</li> <li>③「かわさき生物多様性戦略」に伴う環境局の企画に沿って、市域の自然に関して適切な指導や助言を行うことができた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●川崎市自然環境調査は計画どおり進行している。第8次自然環境調査報告書が刊行されたことは喜ばしい。引き続き川崎市生物目録(仮称)刊行にむけ、努力が期待される。</li> <li>●論文2本、記録・報告1本を公表したことに加えて、館外の各種メディアを利用して多くの論文・報告・記録が公表されており、目標を超えたプラスアルファの努力として高く評価される。またその貢献度(館のイメージや信頼度アップ)はきわめて大きいと評価できる。</li> <li>●引き続き、川崎市自然環境調査に努めて欲しい。タヌキ調査以外のトンボやホタルの調査も市民には興味あるところで、今後の成果に期待する。</li> <li>●学芸員・職員等による研究成果をまとめた川崎市青少年科学館紀要に関しては編集委員会で簡単な論文執筆要綱を作成し、掲載論文の体裁を統一することが望まれる。</li> </ul>
			達成度:3			



<p>継続調査の実施</p>	<p>既存調査の継続と調査対象の拡大の検討</p>	<p>①市内タヌキ調査(麻布大学との協働による食性調査)</p> <p>②ホトケドジョウ種苗保護(県内水面試験場への委託事業)</p> <p>③①以外にも新たな調査対象の検討(生田緑地その他市域のトンボ相等)</p>	<p>①市内タヌキ調査(麻布大学との協働による食性調査)を継続して実施した。</p> <p>②ホトケドジョウ種苗保護(県内水面試験場への委託事業)を継続して実施した。</p> <p>③①以外にも新たな調査対象の検討を行い、生田緑地その他市域のトンボ相やホタル科を材料に、緑地を中心とした環境のモニタリングを試みつつある。</p> <p>----- 達成度:3</p>	<p>①現時点で未公表であるが、市内タヌキ調査(麻布大学との協働による食性調査)を継続して実施した。</p> <p>②ホトケドジョウ種苗保護(県内水面試験場への委託事業)を継続して実施し、緑地内個体群の系統保存ができている。</p> <p>③トンボ目やホタル科など、新たな調査対象を選び、市域の調査を継続している中で、特に生田緑地については、現状の環境モニタリングができつつある。</p>	<p>●調査により明らかになったデータやその状況について活字(研究報告)にして誰もが確認・利用できるようにする必要はある。</p> <p>●自然環境調査を実施し、とりまとめ結果を報告書として出版した点は大きな成果である。一方、市民が自然について考えるきっかけを作るには、多くの調査結果の即日性も望まれるところであり、さらに調査結果のタイムリーな公表(結果の提示)が期待される。</p>
<p>自然について広く市民に伝えるための調査研究の実施</p>	<p>・学芸担当職員の専門性を活かした調査研究活動を通じて、地域の自然を継続的に調査・分析し、研究成果を公開</p> <p>・職員の専門性を高め、展示や学習プログラム等の博物館活動に反映</p>	<p>①市内タヌキ調査の検討(食性調査)及び、収蔵標本資料の活用方法(展示など)の検討</p> <p>②新たな調査対象の検討(生田緑地をはじめとした市域のトンボ相やハチ相などの調査)</p>	<p>①継続の市内タヌキ調査に伴って得られた標本を中心に、収蔵標本資料の活用方法(展示など)の検討を行った。</p> <p>②新たな調査対象の検討(生田緑地をはじめとした市域のトンボ相やハチ相などの調査)</p> <p>----- 達成度:3</p>	<p>①市内タヌキ調査に係る収蔵標本資料について、展示への活用方法を検討した。まだ実現していないが、交換可能な標本を選定中である。</p> <p>②従来のゲンジボタル個体数調査の他に新たな調査対象を選び、生田緑地をはじめとした市域の環境モニタリングを図り、特にトンボ目では着実な成果を示しつつある。</p>	<p>----- 評価: B</p>

(2)天文分野に関する調査研究

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>天文現象についての調査研究の継続</p>	<p>・調査の成果の蓄積と市民・利用者への還元</p> <p>・ときどきの天文現象に合わせた調査を実施し、プラネタリウム番組に反映</p>	<p>①太陽望遠鏡による太陽表面の撮影による観測の継続実施</p> <p>②星空ウォッチング等の機会を利用した市民協働による川崎市域の星の見え方調査の実施</p> <p>③気象観測装置によるデータ取得と解析の実施</p>	<p>①晴天時に白色光、H<math>\alpha</math>光による太陽表面の観測を継続して実施した。</p> <p>②天文サポーターの協力、インターネットによる呼びかけで市内複数箇所からのデータを得た。</p> <p>③気象観測機器による気象データの記録を継続して実施した。</p> <p>----- 達成度:3</p>	<p>太陽観測等、継続的な観測データは博物館資料としても重要であり、データの蓄積を行うことができた。</p>		<p>●太陽表面観測データ、気象データは地道に蓄積されている。また、天文サポーターの協力がその他のデータ収集に効果的に働いていると評価できる。</p> <p>●市民と協力した星空の調査は教育的な面からも重要な取り組みであり、今後も継続していくことが望まれる。大学・研究機関と連携した観測研究は職員の資質向上や展示内容の充実のためにも今後とも続けていくことが重要である。</p> <p>●天文現象の研究活動は、より長期にわたる調査データが必要とされる。それらのデータの解析などの研究成果は常に活字として記録し、成果をまとめた論文に発表することが必要である。研究報告等に紹介されるよう望む。</p> <p>●他館にはない有用資源(アストロテラス)を利用した調査研究は評価に値する。又、市民の天文に対する興味を喚起する取組も評価できる。一方、調査研究の全体像や進捗を広く広報する工夫が期待される。</p>
<p>天文現象について広く市民に伝えるための調査研究の実施</p>	<p>・学芸担当職員の専門性を活かした調査研究活動を通じて、市域でみられる天体を継続的に観測</p> <p>・職員の専門性を高め、プラネタリウムや展示・学習プログラム等の博物館活動に反映</p>	<p>木星閃光観測等、太陽系天体の観測を継続するとともに、市民協働による調査研究に向けて、40cm望遠鏡の市民利用を促進する。</p>	<p>はやぶさ2の観測などアストロテラスの機材を活用した観測、明治大学との連携による40cm望遠鏡を使った木星の観測等を行った。</p> <p>----- 達成度:3</p>	<p>天文サポーターの協力、大学・研究機関との連携により、はやぶさ2のような話題性のある観測や学術的な観測を行うことができた。</p>		<p>----- 評価: B</p>

(3) 科学教育に関する調査研究

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>科学について広く市民に伝えるための調査研究の実施</p>	<p>研究成果を蓄積し、21世紀子どもサイエンス事業を中心とした科学教育普及事業へ反映</p>	<p>科学実験教室・実験講座及び出前科学実験教室で行われた実験に基づく興味関心を高めるような新規玉手箱の開発</p>	<p>これまでの、玉手箱の利用実績を検討し、玉手箱の整理を行った。</p> <p>平成27年度に新規に開発した玉手箱は、「もしも原子が見えたなら」「音であそぼう」「磁石」「レンズ」の4種類である。その結果、19種類の玉手箱を整理し、全部として22種類の玉手箱にすることができた(1種類「DNA」を削除した)。</p> <p>達成度:4</p>	<p>科学館で行われる科学実験教室や、出前科学実験教室での報告書を精査しながら、玉手箱の利用傾向を把握し、これから必要となるであろう玉手箱を新規開発することができたのはたいへんよかった。</p> <p>今後も、玉手箱の種類の整理を行うとともに多様な科学実験教室対応できるよう、新規開発を続けていく。</p>		<p>●新たに4種類の玉手箱を開発したことは評価できる。</p> <p>●科学についての知識を広報するための調査研究の実施がなされ、事業計画通り実験講座の再編がなされたと評価できる。</p> <p>●既存の保有講座の内容充実の為、科学を広く分かりやすく伝えるためのツールを作成し、次のステップに繋げる成果を作りだした点が評価される。</p> <p>●「玉手箱」の開発や報告書の分析とともに、実施項目に掲げている「科学について広く市民に伝えるための調査研究」についても進められることを期待する。</p> <p>●科学教育に関する調査研究は多面的である。その研究手法、実験等の経過や成果を具体的に示すこと。活字にして紹介されることを望む。</p> <p>●研究成果が論文や記録・報告等として公表されておらず、調査研究手法やその取りまとめ方法などの再検討が必要である。</p> <p>評価: B</p>

\* 川崎市自然環境調査: 川崎に生息する動植物の分布状況を明らかにするため、昭和57年より、市民協働で継続してきた調査。

\* 川崎市域の星の見え方調査: 環境省の実施する全国星空継続観察に連携し、夏期と冬期に市域の星の見え方を市民と調査する。

#### 4. 収集保存事業

標本やデータ等の所蔵資料を分類・整理して適切な保存管理を行い、川崎市域の貴重な自然史資料・天文資料を次世代へ確実に継承します。データベース化した所蔵資料の公開や、資料を使った講座の開催等により、所蔵資料の効果的な活用に努めます。

##### (1) 自然資料の収集と保存・管理

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
川崎の自然についての資料収集と保存・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵資料のより効果的な活用</li> <li>・GBIF等国际機関への資料情報の提供</li> <li>・研究機関への資料の貸し出しについて検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①標本資料の体系的な収集(第8次自然環境調査などに伴う資料)</li> <li>②生物標本資料の再整理・分類・配架および電子台帳整備</li> <li>③収蔵資料の登録・保管手法の確立</li> <li>④GBIFへのデータ提供による、国内外への収蔵標本の情報公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①標本資料の体系的な収集(第8次自然環境調査などに伴う資料)を目指したが、その活動規模は限定的なものにとどまった。</li> <li>②生物標本資料の再整理・分類・配架および電子台帳整備は着実に進展し、とくに両生爬虫類・甲殻類・クモ類は標本カタログ(収蔵目録)を刊行した。</li> <li>③収蔵資料の登録・保管手法の確立には諸課題は残されるが、脊椎動物など大型のものから試行し、改善を図った。</li> <li>④収蔵目録が刊行された鳥類や哺乳類から、GBIFへのデータ提供による、国内外への収蔵標本の情報公開を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①第8次自然環境調査に伴う自然史標本資料は、特定の分野に偏る傾向があるほか、いまだ十分ではないが、職員による資料収集も、可能な限り広範に実施している。</li> <li>②収蔵標本の分類整理、配架および電子台帳の整備、標本カタログ化は順次、着実に進展している。</li> <li>③②と共通するが、標本カタログの作成と並行して、GBIFの体裁に合わせた電子台帳整備が進展している。④電子台帳整備とも連動させながら、情報公開の一端として、大型の脊椎動物(鳥類・哺乳類)から、GBIFへの526点のデータ提供を行うことができた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●動植物標本を中心に収蔵資料が精力的に分類整理され、順次電子台帳に登録されていることを評価したい。また、鳥・哺乳類だけとはいえ、収蔵データをGBIFへ登録できたことは評価できる。</li> <li>●標本整理が順調に進んでいる状況を標本室の状況、紀要での紹介により把握できる。博物館としての役割であり、さらに進めていってほしい。リニューアル以前の標本についても継続的に調べ、確認されることを望む。</li> <li>●資料目録3本を公表したことに加えて、昆虫標本にも資料番号を与えたことは全国的に見ても率先した取組であり、さらにGBIFに各種資料情報を提供したことはプラスアルファの努力として高く評価される。</li> <li>●保存資料のうち公開すべき資料の区分や保存のための設備の整備など人的、予算的な配分のさらなる充足が望まれる。</li> </ul>
			達成度:3			評価: B

(2)天文資料の収集と保存・管理

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
天文についての観測データの収集と保存・管理	収蔵資料のより効果的な活用と公開	①富田氏・箕輪氏資料の整理および調査研究の実施  ②観測結果の整理デジタル化を行いデータ解析の実施	①昨年度の引き続き、富田氏・箕輪氏資料の整理を行い、リストを作成した。  ②太陽表面等、観測データの画像処理を行い、プラネタリウム投影等に活用できるよう整理した。  ----- 達成度:3	①富田氏資料は膨大であり、アルバイト等の協力を得て整理を進めているところである。  ②整理した画像データを企画展示、プラネタリウム投影等に活用できた。		●保存資料のうち公開すべき資料の区分や保存のための設備の整備など人的、予算的な配分のさらなる充足が望まれる。 ●日常の観測データを企画展示やプラネタリウム投影等に活用している点は評価される。 ●今後も地道に資料整理を行い、観測データを展示、プラネタリウム投影に活用されることを望む。
プラネタリウムについての資料収集と保存・管理	プラネタリウム番組や解説資料のアーカイブスの作成	プラネタリウム番組の制作時に収集した資料、素材のアーカイブ化の実施	番組制作時の資料を整理するとともに、制作した番組の素材、データの保存を実施した。  ----- 達成度:3	番組の素材データはデジタル形式で保存し、投影の他、広報や印刷物等に活用した。		●収蔵データ、特に寄贈データは、他者の実施したデータであり、整理やリスト化が困難である。これを整理・分類を進めている点が評価される。又、データのデジタル化により、資料活用の可能性を上げた点が評価される。 ●富田氏・箕輪氏資料等、他館にない重要資料については、その整理、公開が期待される。 ●データが着実に蓄積されていることは高く評価されるが、博物館における証拠資料としての位置づけや内容が見える形で公表されていない。  ----- 評価: B

(3) 科学教育に関する資料の収集と保存・管理

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
科学実験についての資料の保存・管理	科学実験教室に関するノウハウを整理・保管・共有化	①事業報告書等をもとにした各実験教室のデータの共有化 ②開発した実験道具等の保管・整備	①今年度も実験教室ごとに報告される報告書を管理し、館職員や科学ボランティアがいつでも確認できるようにして、科学実験教室の開催に有効活用できるようにした。 ②玉手箱の管理を行い、改良された部分や部品等に関してはラベリングを継続して行うとともに、実験室・準備室の整備に努めた。	①報告書を整理し、同一のテーマに関して整理することにより、各実施者の情報や科学実験教室でのノウハウなどが共有できるように努めた。 ②実験室や準備室の整備を行い、玉手箱に収納されている道具や部品等の整理を行い、円滑な科学実験教室を実施できるように努めた。		<p>●各種実験教室ごとの報告書を整理し、いろいろな科学実験教室の開催に有効活用できるようにしたことは評価できる。</p> <p>●科学実験講座に関する実施に関わる情報やデータの共有化が行われたことは評価できる。</p> <p>●館職員のみならず、科学ボランティア等にも分かりやすく、理解しやすいデータの共有化を図っている点が評価される。</p> <p>●事業報告書や実験道具等が博物館が取り扱うべき保存資料あるいは科学としての証拠資料としてどのように位置づけられるのかが不明確であり、収蔵システムを再検討する必要がある。</p>
			達成度:3			評価: B

\* GBIF: 地球環境生物多様性情報機構

\* 富田氏資料: 東京天文台講師であった富田弘一郎氏より寄贈された資料。

## 5. ネットワーク事業

生田緑地内の文化施設をはじめとする多様な団体や関係機関との連携により、市民・利用者にとって魅力的な活動を幅広く展開します。多様な団体や関係機関が、それぞれの専門性や地域性を生かして連携することで、相互補完や相乗効果による総合力を高めることをめざします。

### (1) 展示・企画ネットワーク

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
市民や企業・研究機関等の参画による、川崎市の特性を活かした展示や教室等の実施	市民や研究機関・企業との共同企画展の開催等、パートナーシップによる事業を実施	①関連団体との事業の企画実施(川崎市自然環境調査や展示更新など) ②先端科学技術について紹介する企画展の開催(再掲)	①8月にKSPで開催された「かわさきサイエンスチャレンジ」に運営委員として参加した。 ②先端科学技術展」を計画していたが、引き受け企業が見つからず、実施することができなかった。	①市内最大の科学イベントであり、実行母体である運営委員会の一翼を担うことで、参加団体と協働して科学的な興味関心を高めたり科学館の周知をはかることができた。 ②企画展の引き受け企業が見つめることができなかったのは残念であった。	②展示会開催にあたっては、企業が参加・協力しやすく、適切な委託契約の方法について検討のうえ、委託企業の選定にあたるようにする必要がある。(企業による先端科学技術展は平成28年度は実施しない予定) (再掲)	●先端科学技術紹介企画展は川崎市の特性を活かした企画として特徴付けられる。H29年度からは是非再開できるような努力することを望む。 ●「かわさきサイエンスチャレンジ」では科学館を市民に大いにアピールすることを望む。 ●「川崎から世界が見える」と言う青少年科学館の基本理念のもと各種団体と協力のもとで、さらなる川崎市の特性を活かした各種事業の企画やその実施を期待する。 ●展示会の企画・協力体制については十分な検討を行う必要がある。
			達成度:2			評価: B

(2) 調査研究・収集保存ネットワーク

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価	
<p>研究機関や市民の調査団体、関連行政機関などとの連携協力体制の構築</p>	<p>各団体や機関が保有する資料の相互提供や情報共有の仕組みづくり</p>	<p>①環境局環境調整課等、関係行政機関との協働「生物多様性かわさき戦略」</p> <p>②第8次川崎自然環境調査(再掲)の報告書編纂</p> <p>③第9次川崎市自然調査の企画(H27～)</p> <p>④市民調査団体(「かわさき自然調査団」「神奈川県植物誌調査会」と連携協力(成果の公表等)</p> <p>⑤星空ウォッチング等の機会を利用した市民協働による川崎市域の星の見え方調査の実施(再掲)</p>	<p>①「生物多様性かわさき戦略」に沿って、環境局環境調整課等、関係行政機関への指導や助言を行うなど、協働による作業を行った(再掲)。</p> <p>②第8次川崎自然環境調査(再掲)の報告書を編纂し、刊行した。</p> <p>③第9次川崎市自然調査の企画(H27～)を再検討し、目標を「川崎市生物目録」作成に向けた取り組みとした。</p> <p>④市民調査団体(「かわさき自然調査団」「神奈川県植物誌調査会」と連携協力し、前者では報告書VIII(再掲)の刊行など、成果を公表した。</p> <p>⑤天文サポーターの協力、インターネットによる呼びかけで市内複数箇所からのデータを得た。(再掲)</p>	<p>①環境局環境調整課の要請を受け、川崎市域の自然に関し、適切な助言指導を行うことができた。</p> <p>②第8次自然環境調査報告書の編纂に際し、市民団体を適切に指導し、刊行することができた。</p> <p>③市民団体との協議において、「川崎市生物目録(仮称)」に向けた検討を進めることができた。</p> <p>④「かわさき自然調査団」との協働事業においては、「第8次自然環境調査報告書」として成果を出版、公表することができた(再掲)。神奈川県植物誌調査会との協働事業は、現在も進行中である。</p> <p>⑤継続的な観測データは博物館資料としても重要であり、データの蓄積を行うことができた。</p>		<p>●自然と天文に関して、市民や市民団体と連携した資料収集体制が整いつつある。また、市域の自然について行政機関(川崎市環境局等)に助言指導ができたことは評価される。</p> <p>●第8次川崎自然環境調査報告書の刊行や川崎市域の星の見え方調査など市民のボランティア団体と協力して実施したことを評価する。</p> <p>●地域のみならず、関連する学協会との連携ネットワークの構築により本事業のさらなる充実が望まれる。</p> <p>●館として実績が上がってきていると思われる。館の存在や活動が市の他の部署から理解されることが必要である。活動をさらに発展させ、川崎市における取り組みについて県内外に示すよう望む。</p> <p>●調査研究に市民を巻き込み、協働することは、人材や予算に限りある博物館にとって欠かせない手法である。単に情報を蓄積するに止まらず、目録や報告書として公表されている点は高く評価できる。ただし、公表された成果は生物に止まっており、天文や科学においても同レベルの活動が求められる。</p>	
			<p>達成度:3</p>				<p>評価: B</p>



## (3) 学習支援ネットワーク

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
学校や市民団体と連携した学習・交流の拡大	教職員、ボランティア団体、科学館の協働により学習プログラムを開発・実施する体制の構築	<p>①学校向け自然観察会(地層・林)の実施(再掲)</p> <p>②職業体験の実施</p> <p>③学習資料の作成支援・提供(地層・林・総合的な学習の時間)(再掲)</p> <p>④小学校理科優秀作品展の開催(再掲)</p> <p>⑤中学校理科優秀作品展の開催(再掲)</p> <p>⑥中学校連合文化祭開催への協力(再掲)</p> <p>⑦科学館の資料や資材を活用した学校教育への支援や情報提供(再掲)</p> <p>⑧市内各地及び学校を会場とした天体観望会(星空ウォッチング)の開催(再掲)</p> <p>⑨大学からの依頼により実習生を受け入れて博物館実習を実施する</p> <p>⑩参加者の交流を生み出す科学イベントへの参加(かわさきサイエンスチャレンジ)(再掲)</p>	<p>①「2. 教育普及事業-(1)学校支援①」参照</p> <p>②職業体験として中学校2年生を対象に17校・68名実施した。</p> <p>③「2. 教育普及事業-(1)学校支援③」参照</p> <p>④「1. 展示事業-(3)科学に関する企画展の実施①」参照</p> <p>⑤「1. 展示事業-(3)科学に関する企画展の実施②」参照</p> <p>⑥「2. 教育普及事業-(3)学校支援②」参照</p> <p>⑦「2. 教育普及事業-(3)学校支援③」参照</p> <p>⑧「2. 教育普及事業-(2)学校支援②」参照</p> <p>⑨学芸員実習を実施し、10人の実習生を受け入れ、実習を行った。</p> <p>⑩かわさきサイエンスチャレンジに参加し、13のブースを開設し、2日間に延べ2,426名の参加者を集めた。</p>	<p>①観察会における解説内容を共通理解し、充実した観察会を開催することができた。</p> <p>②科学館事業全体の体験ができるようにし、職業意識を高めるきっかけづくりができた。</p> <p>③学習資料を配付し、多くの学校の地層見学会において役立つことができた。また、地層観察会に利用できるシートを新たに1枚作成した。</p> <p>④⑤最優秀の科学作品を「みんなの展示コーナー」に掲示することで来館者の関心を高めることができた。また、中学校の生徒達の研究成果を展示する中学校理科優秀作品展もあわせて開催することができ、研究成果を伝える拠点づくりとして連携を小中学校と図ることができた。</p> <p>⑥生徒の科学的研究の発表の場としての提供し、生徒の科学的な興味・関心をさらに高める機会を教員と共につくることができた。</p> <p>⑦教員研修会などを利用して、玉手箱を体験する機会を増やし、学校での玉手箱利用数の増加につなげた。</p>		<p>●小中学校との連携では、自然・天文・科学の各分野について多様で豊富な学習支援企画が実施されていて、科学館は、今や川崎市の理科教育には欠かせない存在になっている。</p> <p>●小、中学校理科優秀作品展の開催や教員研修会などを利用して、玉手箱を体験する機会を増やすなど、学校での科学教育の普及活動に貢献したことは大変評価できる。</p> <p>●小中学校に対して、様々な理科教育の体験学習機会の提供だけではなく、キャリア教育の体験の場としても職業体験を受け入れも行われている。今後も継続されることを望む。</p> <p>●インターネットの適切な利用による市内の小・中学校及び高校の理科担当教員への学習支援に繋がる情報発信のためのネットワーク構築が望まれる。</p> <p>●将来を担う子どもたちにフォーカスをあてて学校を中心に連携を図った点が評価される。即効性はないが、将来的に科学に興味を持ち、科学に携わる子どもたちが増える種まきをしている点が評価される。</p> <p>●博物館学芸員の実習は将来の学芸員になる学生のため、また、博物館活動について理解してもらうためにも館として力を注ぐべきである。</p>

			<p>⑧「2. 教育普及事業-(2)学校支援②」参照</p> <p>⑨円滑に実習を実施し、実習生に様々な体験学習機会を提供することができた。</p> <p>⑩市内最大の科学イベントで、参加団体と協働して科学的な興味関心を高めたり、科学的な体験を提供することができた。</p>	
		達成度:3		評価: A

(4)地域振興ネットワーク

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>生田緑地のにぎわいとその拡大をめざしたまちづくりへの参加・協力</p>	<p>・地域の団体が生田緑地を活用して企画・実施する事業を支援</p> <p>・生田緑地の自然等に関する知識や科学館のノウハウを活かした専門的な支援を実施</p>	<p>①民家園との共催事業「お月見の会」の実施など、緑地内施設や図書館、区役所等との共催事業の実施(再掲)</p> <p>②生田緑地サマーミュージアムの実施(指定管理者との連携による円滑な事業運営体制の構築)</p>	<p>①民家園との連携によるお月見プラネタリウムと民家園での月の観察会を実施した。多摩図書館との連携による朗読会、多摩区役所との連携による星空コンサートを実施した。(再掲)</p> <p>-----</p> <p>達成度:3</p>	<p>いずれの事業も毎回多数の参加者があり、市民の期待が高いことに加え、多くの方の星に親しんでいただき、科学館の利用を促す機会としても有効である。</p>		<p>●生田緑地の活性化による利用拡大のための事業が企画、実施され、評価できる。</p> <p>●いろいろな企画の実施により、生田緑地に訪れる人が増加したことは喜ばしく、評価できる。</p> <p>●生田緑地のよさを民家園とともに発信していくこと、また、他の機関との更なる連携の推進を望む</p> <p>●コストパフォーマンスの高い事業として評価される。</p> <p>-----</p> <p>評価: B</p>

(5) 生田緑地内ネットワーク

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>生田緑地内施設との相互連携による、ジャンルを超えて市民・利用者が楽しめる事業の実施</p>	<p>・生田緑地内施設間における情報共有化による、運営の効率化</p> <p>・広報媒体の共同利用や共通情報のデータベース化等、広報活動の連携</p>	<p>①生田緑地サマーミュージアムの実施(指定管理者との連携による円滑な事業運営体制の構築)(再掲)</p> <p>②民家園との共催事業「お月見の会」の実施(再掲)</p> <p>③全体会議、広報担当者会議等の実施による情報共有</p> <p>④生田緑地の行事情報パンフレット作成など共同広報の実施</p> <p>⑤生田3館及び藤子Fミュージアムとの連携によるスタンプラリーの開催</p>	<p>②民家園との連携によるお月見プラネタリウムと民家園での月の観察会を実施した。また、岡本太郎美術館との連携し、「岡本太郎と宇宙」と題して天文・芸術講演会を開催した。</p> <p>③全体会議、広報担当者会議、スタンプラリー会議、日常的な連絡調整により、指定管理者も含めた緑地内関係者と情報共有、意見交換を行った。</p> <p>④効果的な情報発信のあり方について検討し、緑地のイメージポスター、事前申込なしで参加できる事業を記載したイベントガイドの作成を開始し、全5号配布した。</p> <p>⑤各館から担当者を出して検討、準備を進め、7月18日から9月30日まで開催し、約8,000人(記念品交換者数)の参加があった。</p> <p>----- 達成度:3</p>	<p>連携先の特性や、指定管理者の広報スキルを活かしながら、事業内容の充実、対外的なPRを図り、緑地の賑わいを創出することができた。</p> <p>民家園のほか、新たに岡本太郎美術館との連携事業を行うことができた。</p>		<p>●生田緑地内の民家園や岡本太郎美術館と連携し、緑地全体の活性化を図ったことは評価できる。緑地及び各施設を紹介する「イベントガイド」も訪れた人には大変役に立つ。</p> <p>●各事業実施を円滑におこなうための生田緑地内施設の全体会議、広報担当者会議などの組織のさらなる緊密な連携が望まれる。</p> <p>●地域館との連携により、生田地域での施設活性化につなげた点や、その準備を含めて他館との連携を強化した点が評価される。</p> <p>●岡本太郎美術館との共同により、人文・歴史関係の共同企画を検討することを望む。</p> <p>●コストパフォーマンスの高い事業として評価される。</p> <p>----- 評価: B</p>

## 6. 管理運営

### 運営方針

#### (1) 市民・利用者の参画と協働による柔軟な管理運営

誰もが親しみをもてる開かれた科学館であるために、市民・利用者が主体的に参画できる仕組みを整え、多様な意見・要望に応える柔軟な管理運営を展開します。

#### (2) 安定的で持続可能な成長をとげる管理運営

安全・安心で快適な施設であるために、適切なメンテナンスと時宜に応じた改善を行うとともに、多様な利用者や利用形態に応じたきめ細やかな対応やサービスによって、市民・利用者の満足度を持続的に高める管理運営に取り組みます。

#### (3) 民間活用等による効果的・効率的な運営

科学館の質や魅力を高め、サービスの向上を図るとともに、経営的な視点による効果的・効率的な管理運営を推進します。

#### (1) 管理業務の実施状況

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
運営方式	指定管理者との連携による効率的、効果的な施設運営の推進	施設運営・管理業務を担う指定管理者と、統括業務・学芸業務等を担う市直営部門との円滑な連携確保	指定管理者制度導入3年目を迎え、市と指定管理者との意思疎通がさらに円滑なものとなり、両者連携のもと館運営を適切に行った。  ----- 達成度:3	定期的に情報交換、意見交換を行いながら、連携関係構築を進めるとともに役割分担を明確にし、館運営を円滑に行うことができた。		●指定管理者との業務の役割分担が明確であり、相互の連携がうまく機能している。また、本年度も目標値に近い入館者数と目標値を上回るプラネタリウム観覧者数が得られたことは評価できる。それらを継続して実施されるような広報や予算の重点的な配分を含めた企画立案が望まれる。
開館形態 (一部指定管理業務)	開館時間の弾力的な運用の実施	時間外の施設有効活用の推進	開館時間外に、プラネタリウムコンサート2回、星を見る夕べを12回開催するなど、施設の有効活用を図った。  ----- 達成度:3	指定管理者との連携により、開館時間外における事業実施等を円滑に行い、市民サービス向上につなげることができた。		●開館時間を柔軟にすることで、市民向けのサービスビリティを向上させた点は評価できる。 ●プラネタリウムやアストロテラスの入場者数の減少率を考慮すれば、全体の入館者数が初年度を除いてほぼ30万人前後を維持しており、博物館事業全体としては成功していると言える。

収支計画・実績	館の魅力向上を図る一方で、経営的な視点による効率的、効果的な収支計画の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算範囲内の効率的、効果的な支出、及び収入確保に向けた取組実施</li> <li>・入館者目標値30万人、プラネタリウム観覧者目標値11万人</li> </ul>	<p>平成27年度歳出(予算) 108,361千円  平成27年度歳出(決算) 106,367千円  平成27年度歳入(予算) 26,723千円  平成27年度歳入(決算) 17,411千円  平成27年度入館者数 293,333人  平成27年度プラネタリウム観覧者数 110,824人</p> <hr/> <p>達成度:3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歳入額については、決算額が予算額を下回ることとなった。一方、歳出額については、予算額の範囲内で、事業を予定どおり執行することができた。</li> <li>・入館者数及びプラネタリウム観覧者数とも、ほぼ計画値を達成した。</li> </ul>	<p>ただし、長期的に見た場合、地道な資料収集や調査研究活動をベースにした博物館活動の継続において、終身雇用の学芸員が配置されていない点は大きな懸念材料である。</p> <p>また、館事業の多くが教育普及事業に偏っており、少数の職員で運営している現状では、展示や調査研究、資料保存といった事業分野を圧迫している可能性が高い。バランスの良い事業展開を期待する。</p> <p>●歳入が予算を大きく下回った点については十分な分析が必要である。</p> <hr/> <p>評価: B</p>
---------	---------------------------------------	---	---	--	--

(2)組織体制

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>諮問機関</p>	<p>協議会実施による、館運営、事業の専門性、透明性、公平性の確保</p>	<p>・年4回の協議会開催及び、会における事業進捗報告・意見聴取 ・会議の摘録公開</p>	<p>・年4回の協議会を開催し、うち第3回協議会については事業視察とし、合計13日に渡る視察日提示により、参加機会の充実や委員の館事業への理解促進を図った。 ・摘録作成・館HP上での公開について、迅速に対応した。</p> <p>----- 達成度:3</p>	<p>協議会に向けた資料作成、説明、視察機会の確保等により、館の実態を明らかにし、委員から指導・助言を得ることができた。</p>		<p>●天文や科学サポーター研修会を通じてボランティアの育成体制を作り推進していることは評価できる。 引き続き自然分野のボランティアの育成に力を入れて欲しい。早い時期に自然サポーターによる展示解説が実現することを期待する。 ●ボランティアの育成から、ボランティアの場の提供を行うなど、市民を広く取り組む仕組み作りを実施した点が評価される。</p>
<p>市民・利用者の参画による運営の仕組み</p>	<p>①ボランティア登録制度の設置 ②関係団体との連携による運営</p>	<p>①H27年度以降の設置に向けた、H24年度に検証した内容に基づくボランティア登録制度の設置準備の推進 ②科学館を活用する団体からの意見聴取及び運営への反映</p>	<p>①自然分野では、展示の基盤となる資料の収集保管体制の充実のため、展示解説に先行して資料収集、標本作成を行うボランティアが必要と考えているが、現状では登録制度設置には至っていない。 天文分野では、天文サポーター研修会を実施して天文ボランティアを育成し、研修修了者は「星を見る夕べ」等で来館者対応等の活動を行った。 科学分野では、科学サポーター研修会を実施して科学実験教室等で活動を行った。 ②自然科学分野において、関係団体に委託している事業を中心に十分な調整、意見聴取を行い事業の改善に活かした。</p> <p>----- 達成度:3</p>	<p>①自然分野では、資料収集、標本作成等を行うボランティアの育成のあり方、体制等について検討をおこなった。天文分野、科学分野ではサポーター研修会を継続して実施し、実際に事業補助等で活動し、成果を上げることができた。 ②日頃から関係団体との調整、意見聴取に努め、円滑な事業実施、事業の改善につなげることができた。</p>		<p>●協議会については、博物館法に記述される範囲で進められていると評価している。 ●ボランティアは館にとって必要な存在である。専門性の高いボランティアが必要なのであれば登録制度を置くことが望ましい。なお、自然分野は広い範囲にわたるため、ボランティアの方を確保するのが難しい面がある。 ●概ね目標に沿った成果を上げており、特にボランティア制度を設置したことは高く評価できる。今後は育成プログラムの作成とともに、事業との関わりをどのように持たせていくかが課題であろう。</p> <p>----- 評価: B</p>

(3)危機管理

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
危機管理マニュアルの作成と徹底 (全部指定管理業務)	震災・風水害等各種災害を想定した危機管理マニュアルの作成と周知	指定管理者による防災計画の適正な運用確保	震災等発生時の館における災害対応マニュアルについて、指定管理者と市と協議のうえ内容の整理・充実を図った。 ----- 達成度:3	館における災害対応マニュアルについては、指定管理者と情報・意識共有を図り、平成28年度中の内容の整理・充実を目指す。		●指定管理者により科学館および緑地全体の危機管理マニュアルが検討され、整備されつつある。さらに検討・整備されることを望む。 ●大震災を想定した危機管理は重要であり、展示物の防振対策、観客の避難誘導體制を含め、今後も引き続き体制強化を図る必要がある。
危機管理研修及び想定訓練の実施 (全部指定管理業務)	危機管理マニュアルに沿った、適宜の研修及び訓練の実施	指定管理者による防火訓練・防災訓練の適正な実施確保	避難訓練等の円滑な実施に向け、事前に指定管理者と調整、確認等を行うとともに、9月及び3月に訓練を実施した。 ----- 達成度:3	事前調整において、訓練実施中に想定される課題検討や、明確な役割分担を決定し、訓練を円滑に執り行うことができた。		●BCPマニュアルの作成と避難訓練など、危機意識の醸成と共に、危機対策の実践を実践している点が評価される。
広域避難場所内の施設としての災害対策の実施 (全部指定管理業務)	生田緑地及び緑地内施設と連携した災害対策の実施	指定管理者による緑地全体の災害対策の具体化促進	緑地全体の危機管理マニュアルについて、広域避難場所内の一施設として、指定管理者と情報・意識共有を図りながら策定を促し、生田緑地共同事業体により危機管理マニュアルが策定された。 ----- 達成度:3	広域避難場所内の一施設として機能するため、館職員の参集体制や対応事項について明確にすることができた。		●入館者の安全を第1に考え、年2回の避難訓練はぜひ継続してほしい。消防署にも参加してもらい、自然災害が発生した時に職員が適切に対応できるよう日頃から検討、対話が必要である。 ●通常想定される危機管理には対応しているように見えるが、博物館として必要な資料の保全や属性情報管理についての視点が欠けている。 ----- 評価: B



(4)施設の利活用

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
広報計画	各種出版物の発行	年報、紀要、各種案内パンフレット等の発行による活動内容、成果の発信	指定管理者との連携により、全6号の科学館だより、全4号のプラネタリウムリーフレット、全12種のプラネタリウムポスター、その他年報等を作成した。 ----- 達成度:3	市と指定管理者の意思疎通がさらに円滑なものとなり、編集作業等をスムーズに進めることができた。		●多様な媒体を使った広報活動を行った努力を認める。しかし、この科学館は川崎市民でも川崎区や幸区の方にはなじみがなく、訪れる人はまだまだ少ない。民家園や岡本太郎美術館と連携し、生田緑地全体の魅力を伝える広報活動を今後
	多様な媒体を活用した広報活動(一部指定管理業務)	広報業務を担う指定管理者と、学芸部門の積極的な連携・協力による、情報発信の推進	学芸部門と指定管理者の円滑な意思疎通により、発信を要する正確な情報を迅速に集約し、前項の出版物の他、プレスリリース等を行い外部メディア掲載を合計218件獲得した。 また、Facebookでの学芸部門作成コラム掲載など単なる宣伝の枠を超えた情報発信を行うなどにより、HPアクセス数310,529件、Facebookいいね数518件、ツイッターフォロワー数1190件を獲得した。 ----- 達成度:3	時宜に適った正確な情報発信を実現し、館の取組を様々な媒体を活用して広く広報することができた。		も望む。 ●年報、紀要、パンフレットの充実をさらに進める必要がある。館の評価にも関わってくる。館の出版物のPRに外部メディアを大いに活用することを望む。 ●概ね目標に見合った成果があがっていると判断される。年報の内容は館の評価を判断する上で極めて重要であるが、内容が普及事業に偏っている。特に収集保存事業の内容がわかる情報を発信すべきである。 ●ホームページではコンテンツの利便性を向上させる工夫が必要である。例えば「研究の紹介」では記事別のページから直接当該資料にリンクを貼るべきである。「川崎市自然環境調査報告」は目次のみで内容を閲覧できない状態である。 ●広報媒体については、如何に作るかではなく、如何に活用されたが重要項目である。出版物が必要な人に届くしくみを確保する必要がある。 ●昨今のSNSの手軽さなどを勘案し、タイムリーで有効な情報発信を模索する必要がある。
	生田緑地全体の広報活動と連動した効果的な情報発信(全部指定管理業務)	緑地全体の一体的な広報活動における、科学館情報の発信推進	緑地HP、事前申込なしで参加できる事業を記載したイベントガイド、緑地の魅力を発信する冊子「もりのにじ」等への館主催情報等の掲載とともに、緑地Facebook閲覧者への当館Facebook情報のシェアを実現した。 ----- 達成度:3	館単独の広報と同時に、緑地全体の広報媒体を活用することにより、必ずしも当館の事業に関心を持っているとは限らない人々への情報発信を、さらに広範に行うことができた。		る。 ----- 評価: B

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
科学館の魅力を高めるサービス展開	職員の資質の向上(一部指定管理業務)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員の接遇向上に向けた啓発推進</li> <li>研修への積極的な参加促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議、JVが主催するスタッフミーティング等において、適宜、接遇の重要性について意識の共有を図った。</li> <li>研修参加に要する旅費の確保とともに、職員不在時の補完体制の確保を図った。</li> </ul>	適正な接遇、職員の専門性確保により、来館者アンケートにおいても高い来館満足度(86%)を得ることができた。		<ul style="list-style-type: none"> <li>●プラネタリウムのドーム外壁を利用した展示は評価できる。</li> <li>●学習投影などの学校来館の際、天候に左右されず安心して利用でき、管内での学習活動でも迅速に対応しているのが評価できる。</li> <li>●イベント実施に合せたショップの営業時間延長、学校団体の昼食時の学習室開放や講座のインターネット申込受付などサービス面に対応したことを評価する。</li> <li>●バラ苑の開苑時は多くの人が生田緑地を訪れる。バラ苑は生田緑地の各博物館が休館の月曜日も開苑しているため、この期間のみ各博物館も月曜日も開館できるように今後検討して欲しい。</li> <li>●科学学習の場を提供することで、施設の有効活用を行うと共に、科学の学習場所としての施設のPRにつなげた点が評価される。</li> <li>●顧客視点で、インターネット予約など、利用者にとって便利で手軽な方法を実践した点は高く評価される。</li> <li>●この館の目玉となるようなオリジナル商品の開発を進めてほしい。</li> <li>●学校団体等利用手続の利便性向上については、目標に応じた実績を上げていると評価できる。こうした取組がどのくらいの効果を生み出しているのか、数値化する努力が必要である。</li> </ul>
	館全体の魅力向上に向けた、カフェテリア・ショップのサービス向上(一部指定管理業務)	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリジナル商品、独自メニュー等の開発促進</li> <li>主催事業と連動した営業時間の弾力的な取扱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>館独自に商品開発に向けたアイデア検討を行うとともに、指定管理者に対し、新規の商品開発を促した。</li> <li>夏季期間中や時間外のイベント実施時に、カフェテリア・ショップにこれに合せた開業を促し、合計7件の開業延長を実現させた。</li> </ul>	カフェテリア・ショップとの連携により、館の取組に付加価値を創出し、来館者に対し主催事業参加に伴う新たな選択肢を提示することができた。		
	展示室以外(実験室や学習室等)のスペースを活用した学習サービスの提供	館内空きスペース等を活用した、学習サービスのさらなる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験室及び学習室1～3等を活用し、自然ワークショップ、夏休み理科教室、実験工房、わくわく科学実験教室等の各種講座のほか、各種講演会も実施し、広く学習の場を提供した。</li> <li>プラネタリウムドーム外壁(受付脇)を利用し、企画展示、季節の植物や天文現象等の情報提供パネルの設置等を行った。</li> </ul>	館内諸室を有効かつ効率的に活用することにより、各分野の各種講座・講演会等を数多く実施し、多くの市民に充実した学習の場を提供することができた。		

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
科学館の魅力を高めるサービス展開	学校団体の利便性に配慮したサービスの提供 (全部指定管理業務)	天候に左右されない、安心かつ快適な利用環境の提供	学校団体からの昼食会場としての館施設予約を258件受け付け、学習室等を開放した。  ----- 達成度:3	学校団体が、天候に左右されず、安心して教育活動等を行える利用環境を調えた。		----- 評価: B
	他施設との連携によるサービスの向上(一部指定管理業務)	生田3館共通割引制度を始めとする、各種割引制度の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通利用券について、千円券105シート、2千円券12シートを販売し、約129千円相当の使用実績があった。</li> <li>館内において、複数館割引等に関する、認識の共有化を図った。</li> <li>緑地内他施設にて割引適用対象としているOPクレジットカード、TOP&amp;カード所持者への割引適用を開始した。</li> </ul> ----- 達成度:3	複数館割引制度の適用・周知等により緑地内の回遊性向上を図るとともに、他館との情報交換等により、割引制度適用に際し足並みの揃った対応を確保した。		
	利用手続きにおける利便性の向上(一部指定管理業務)	来館を要しない、事業への参加申込手段の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラネタリウムコンサートの他、一部の講座・研修会等についてもインターネットによる申込受付の拡大を図った。</li> <li>この他の学芸事業においても、来館不要の往復はがきによる申込受付としている。</li> </ul> ----- 達成度:3	インターネットによる申込受付が可能な講座・研修会等については、積極的に導入を図り、利用者の利便性向上を図ることができた。		

多様な利用者への配慮(一部指定管理業務)	<p>バリアフリーの実現とユニバーサルデザインの導入</p>	<p>バリアフリー関連設備等の保全及び人的支援の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時バリアフリー設備の点検を行うとともに、職員に対し人的支援に係る啓発を適宜行った。</li> <li>・展示パンフレットの点字版を用意した。</li> <li>・プラネタリウムにおいて、市立聾学校児童等を対象に、字幕付き投影を実施した。</li> </ul>	<p>障害等の有無に係らず誰もが気軽に来館し、館の取組を享受できる利用環境を確保することができた。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●身体障がい者、外国人等、さまざまな利用者に対して積極的な取り組みを行っている。今後増え続けるであろう外国人入館者への対応に関し、予算措置を含めた策定が必要である。</li> <li>●他言語による対応強化が課題となっている中で、プラネタリウムのいくつかのプログラムについて、多言語で解説が聞けるよう工夫されることを望む。</li> <li>●多言語対応の一環として、利用案内の充実を図った点は評価される。又、展示コーナーでの外国語対応を行い、グローバル化に向けて活動を開始した点は評価される。</li> <li>●バリアフリーに伴うユニバーサルデザインは館のリニューアル時に対応されていると思うが、その後の基準等について確認が必要である。</li> <li>●外国人対応に示す主なサインは市の基準を踏まえるとともに、展示等の解説は他館を参考にすべきである。</li> <li>●バリアフリー化の取組は評価できるが、オリンピックやパラリンピックによる外国人観光客への対応については、当館が地域の社会教育施設であることに鑑み、無駄な投資を避けるためにも来館見込み(外国人観光客が本当に見込めるのか?)も含めて再検討が必要である。</li> </ul>
	<p>外国人利用者に配慮した案内情報の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内表示等の適切な管理</li> <li>・外国人利用者に向けた情報発信の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館の利用案内について、英語版・中国語版、韓国語版を用意し、利用に供した。</li> <li>・サインの磨滅などの点検を随時行った。</li> <li>・展示コーナーにおける解説等の外国語表記の設置に向けた検討を行った。</li> </ul>	<p>外国人が気軽に来館し、館の展示等を享受できる利用環境を確保することができた。</p>	<p>2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、今後生田緑地を訪れる外国人観光客数の増加が見込まれるなか、当館への来館促進に向け、他言語による対応強化が課題となっている。</p>	<p>評価: B</p>

(5) 進行管理

実施項目	中長期目標	平成27年度計画	平成27年度実績	自己評価	今後の課題	専門部会評価
計画に基づく事業実施と点検	運営基本計画に基づく事業の執行、及び適正な進行管理	事業の進捗状況の点検及び協議会への報告	<p>・十年計画表、単年度事業評価シート等の策定により、事業点検を行った。</p> <p>・事業の進捗状況についても、説明の機会を確保した。</p> <p>-----</p> <p>達成度:3</p>	中長期計画に沿った単年度事業計画を策定するとともに、事業点検を行いながら進行管理することができた。		<p>●運営基本計画に沿った進行管理はきちんと進められている。この点は評価できる。しかし、事業評価に関しては、客観性の点で問題がある。各項目について、できるだけ数値目標を掲げた定量評価に移行していくべきである。</p> <p>●自己評価及び専門部会評価結果を取り入れ実施計画の策定がなされ、進行管理が実施されていると評価される。</p> <p>●長期計画の再検討を行うことが館の発展の一步となる。館は10年でそれまでの実施状況を振り返り、評価して不足している点を把握して加える必要がある。</p> <p>●客観的な評価には入館者数や参加者数だけではなく、数字を質的に評価できる情報が必要である。調査研究事業や資料保存事業においても同様で、前者にあつては学術的著作物の件数、後者にあつては登録資料数や台帳化率、多様性網羅率など、複数の指標を数値化して評価することが求められる。</p> <p>-----</p> <p>評価: B</p>
事業評価と周知	<p>①多様な視点を反映し、定量評価を盛り込んだ自己評価の実施</p> <p>②諮問機関等による第三者評価の実施</p> <p>③年報・ホームページ等による評価の周知</p>	<p>①客観的な視点に基づく自己評価の策定</p> <p>②協議会評価の策定に向けた調整</p> <p>③評価結果の公開</p>	<p>①客観的な事実に基づき、自己評価を行った。</p> <p>②協議会評価の策定に向け、各委員に対し、説明・調整等を丁寧にお行った。</p> <p>③26年度事業評価確定後、ただちに館HPにて公表した。</p> <p>-----</p> <p>達成度:3</p>	自己評価及び協議会評価の策定により、館の取組を客観的に評価するとともに、事業の進行管理を適切に行うことができた。		
評価に基づく改善と計画の見直し	館の持続的な成長に向けた、単年度評価結果の次年度事業計画、指標等への反映	評価結果に基づく、新年度(平成28年度)計画の策定及び中長期計画の見直し	26年度事業評価結果及び各委員の事業視察時における指摘事項等を踏まえ、28年度事業計画策定に向けた準備を行った。	26年度事業評価結果を受け、取組の見直しを行うとともに、28年度事業評価シート、事業計画等の策定に反映させた。		